

ふるさと歴史アラカルト

宿場のお仕事

現在私たちが国内で遠出をする場合、自動車や電車、飛行機などさまざまな手段があります。一方江戸時代の移動手段は、徒歩や馬・駕籠、船しかありませんでした。また電話やメールもなく、遠く離れた地に情報を伝える場合、手紙にして人力で運びました。そのため、各地を結ぶ道、特に江戸幕府や各地の大名・領主が管理するような大きな街道沿いの要所には、荷物や手紙などを運ぶ人馬の交代や、旅人の宿泊のために、宿場が設けられました。

江戸時代の岩国領には、大坂と小倉を結ぶ山陽道（中国路・西国街道）が通り、関戸と玖珂に主要な宿場がありました。特に関戸宿は、山代方面に続く石州街道にも近く、船が通る錦川沿いに位置する往来の多い宿場でした。

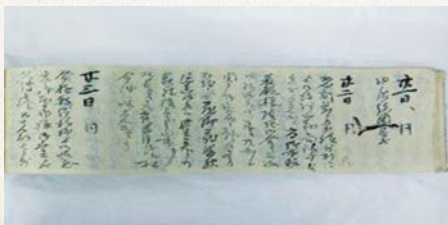
その関戸宿において、村役人である刀祢を勤めた重富家当主の日記が現在も数点残っています。その中には、重富家を訪ねた人々のほか、宿場での仕事内容や対応の様子などが記されています。例えば萩藩主の跡継ぎである

毛利定広（元徳）一行が宿泊するという連絡が入った際には、不足していた白米や布団を周辺地域から大量に急いで集めて間に合わせています。

また江戸や京都などの都市をはじめ、各地を旅した人々が利用する宿場には、日本各地の情報が集まりました。特に戦争や災害などの異常事態の場合は、多くの人々からさまざまな情報をもたらされたようです。前述した重富家当主の日記にも、慶応4（1868）年に京都で始まったばかりの戊辰戦争に関する情報が、伝聞の形で多く記されています。遠く離れた場所で起こったことを素早く知る手段がない時代において、宿場ということを生かしながら、重富家は情報網を構築していたようです。

岩国領には現在も江戸時代の山陽道が残っている地域があり、宿場付近では旧跡や街並みから往時の様子が感じられます。江戸時代の宿場のにぎわいを想像しながら歩くと、また異なった見え方ができるかもしれません。

写真…関戸宿の刀祢を勤めた重富弘忠の日記



いわくにちようこかん 岩国徴古館

昭和20年に旧岩国藩主吉川家によって建てられ、その後岩国市に移管された市立の博物館
住所：横山二丁目7-19 ☎(41)0452
休館日：月曜（祝日の場合はその翌日）

岩国市 人口・世帯

人口 129,276人【前月比 +195人】 男性 61,627人 女性 67,649人

世帯 65,348世帯【前月比 +239世帯】 ※外国人人口を含む(2022年5月1日現在)

交通事故発生件数

4月分事故件数 10件(68件) 死者数 0人(0人) 傷者数 11人(77人)

※高速道路発生分を除く。()内は2022年累計

目の不自由な人へ

「広報いわくに」のカセットテープをお貸しします。
お問い合わせは、広報戦略課 ☎(29)5016 FAX (21)3337